

教育プログラム・コースの概要

大学名等	聖マリアンナ医科大学
教育プログラム・コース名	ゲノム医療者養成コース（大学院）
対象者	大学院生
修業年限（期間）	
養成すべき人材像	①プレジジョンメディシンの実現化へ向けて、がんゲノム医療の基礎知識を獲得し、ゲノム情報に解釈を加えることができる人材 ②がん薬物療法を広く理解し、ゲノム情報をもとに現存の選択肢の中から最適な薬物療法を選択し、実践できる人材 ③新規薬剤の治療開発に必要な基礎知識を獲得し、ゲノム情報から得られた結果をもとに、新規薬剤の開発治験について、患者・家族に十分に情報提供し、リクルートすることができる人材
修了要件・履修方法	（大学院）下記の必修項目を含めて30単位以上を履修し、学位論文を提出の上、審査、最終試験に合格すること
履修科目等	<必修科目> 臓器横断的な臨床腫瘍学総論を中心に、がん分子生物学、ゲノム医療学を加えた必修24単位(ゲノム医療のon the job trainingを含む) <選択科目> 臓器別がん治療、放射線治療学、緩和医療学から6単位以上
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	<p>本学は、現在プレジジョンメディシンの実現化へ向けて、各個人のゲノム情報に、実臨床や新薬開発に有用な解釈を加えることができるエキスパートパネルの構築と研修プログラムの開発を、AMED研究班「産学連携全国がんゲノムスクリーニング事業SCRUM-Japanで組織した遺伝子スクリーニング基盤を利用した、多施設多職種専門家から構成されたExpert Panelによる全国共通遺伝子解析・診断システムの構築および研修プログラムの開発（吉野班）」に参画して開始している。本コース受講者は、この研修プログラムの開発に臨床腫瘍学講座員とともに携わり、実際にon the job trainingを含むプログラムの受講者による直接指導と、プログラムの実際の受講を予定している。</p> <p>また本学は、すでに上述のゲノムスクリーニング事業であるSCRUM-JAPANに参画し、多くの患者のゲノム情報の解釈とその実臨床への利用や、当院で施行しているものだけでなく、SCRUM-Japanの施設連携ネットワークを利用した新薬開発治験への患者のリクルートを実践している。本コース受講生は、ゲノムスクリーニングの実践から治験の遂行までを含めたプレジジョンメディシンの実用化を学習することを目標とする。</p>
指導体制	<p>臨床腫瘍学講座、がん診療を担当している関係講座、ゲノムスクリーニング事業の実施ですでに連携している遺伝外来担当者が連動して指導を行う。実際に上述した全国共通遺伝子解析・診断システムにおけるon the job trainingを含むプログラムの開発者・受講者による直接指導も予定している。</p> <p>また、連携大学間の交換講義、ウェブレクチャーなども行う予定である。</p>
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・がん薬物療法専門医 ・臨床遺伝専門医
受入開始時期	平成30年4月

受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院生	0	2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8